

平成 21 年度

事業所名 : グループホーム 敬寿荘

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200329		
法人名	医療法人社団 帰厚堂		
事業所名	グループホーム敬寿荘 (2階ユニット)		
所在地	〒028-3614 岩手県紫波郡矢巾町又兵衛新田6-15-5		
自己評価作成日	平成21年12月24日	評価結果市町村受理日	平成22年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372200329&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372200329&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 14 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

矢巾駅より商店街が立ち並んでいます。近隣とのつながりを大切にしております。駅が近く交通の便が良く立地条件に優れていると思います。また 改築した建物ですが利用者の方々に住み慣れた環境を整えております。安心した生活を提供出来るよう心がけて対応しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店街の一角に所在している当ホームは、農協の建物を改造しているが浴室、廊下、トイレは広く、手すりを取り付けるなど安全に配慮している。利用者と家族には入居時の説明の際、暮らしには時を知ることが大切だとして時計を持参してもらい、ホームでの暮らしに活用している。職員は利用者を年長者として敬い、利用者の表情も明るく笑いが絶えない。高齢化は進行しているが季節行事ではミズキ団子をつくり近所に配るなど利用者の力を活かして地域との交流を深めている。今後とも五感を刺激する行事を工夫し地域との交流を継続されるとともに、楽しく安心して過ごせるホームづくりを期待する。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

自己評価および外部評価結果 (2階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り前にスタッフ全員で唱和しお互いに理解を深めている。	リビングと玄関に掲示するとともに、毎朝の申し送り時に夜勤者、早番、日勤の職員で利用者の状態について情報を共有して利用者それぞれがその人らしく生活できるような支援を目指し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の公民館の行事、春は花見・秋は文化祭に参加し交流を深めている。近隣の商店や床屋を継続的に利用している。	回覧板を回したり、商店街を利用して買い物をしたり、利用者との散歩時に挨拶を交わしたり、敬寿荘だよりを配るなど日常的に交流している。またふれあい祭りを開催して、にぎやかに地域と交流できる機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	矢巾町地域包括支援センター・介護保険課・GH2件で認知症サポーター研修を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状を報告し理解を深めている。内容によっては次回もその後の経過を報告している。	会議では、利用者の身体や生活の状況、行事などを報告し意見交換が行なわれている。また、議事録を行政に提出し相談しながら取り組んでおり、話し合いの内容をサービスの向上に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を届けて説明し指示をいただいている。	会議録や敬寿荘だよりを届け、積極的に情報を伝えるほか、介護認定の手続きや利用者の支援相談など日常から協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	中央玄関の前は駐車場で車の往来が激しく施錠しているが道路側の玄関は錠は付けているが、自由に出入りできるよう見守っている。	普段利用する玄関は錠をつけているが、出入りは自由で見守りで対応している。なお、研修を受講した職員が伝達研修を行うなど身体拘束をしないケアの理解と実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は身体拘束廃止推進養成研修を受講し、スタッフの中で言葉に対する拘束を感じられる対応があり事例集で説明し感想を求めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中には権利擁護を利用している方もいるのでほぼ理解していると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、家族へ説明し同意を得ている。またその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来荘時にいただいた意見、要望は、その都度職員間で話し合い、次の会議で報告したり、家族の会議への出席をお願いしている。	利用者との日常の会話から把握するほか、家族とは推進会議の場や面会時、電話などを通じて聞く機会をつくり、その意見や要望などを反映するよう努めている。また、投書箱は設置しているが今まで利用された方はいない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを開催し伝達事項を伝えまた問題点を改善の方向に検討している。また申し送り等でもその都度話し合っ決めていく。	管理者は、毎日の申し送りノートを活用して支援に対する意見や要望を確認している。さらに、毎月開催するカンファレンスで課題について全職員で検討し運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その都度話し合いをしてそれぞれ納得して共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に併せ交代で研修を受講してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の研修会等あり時間を調整し出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中での生活援助が必要か、コミュニケーションを取りながらGHの生活に慣れていただき馴染みの関係づくりに心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の来荘時は出来るだけ対話の時間をとって不安なことはないかなど要望に対して解決する方向で検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を見極めるとともに本人と家族との信頼関係も踏まえて家族の協力体制も考慮して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から教わることも多く、信頼し合える関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状態の変化を捉え、気づいたことは電話等で出来るだけ早めに連絡し相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	彼岸には家族、本人、スタッフと共に墓参りに同行したり、町内で開催される演芸会を鑑賞したりと、地元との交流を深めている。	ホーム利用前にお付き合いしていた近所の友達や、カラオケの仲間が遊びに來たりしている。また、以前、利用していた洋品店や床屋さんなどを利用しており、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢、出身地が近いこともあり、お互いが心の支えになっている。又、スタッフの声がけ、導き等にて更に関わり合えている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な入院となり退居となった場合、病院へ面会し状態をうかがっている。入居時から古新聞を届けてくれていた家族が、今も継続してくださっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気持ちの落ち込みが激しい場合は、そっと見守っている。	日々の暮らしの中での会話や行動、表情などから利用者が思っていること、望んでいることの把握に努めているほか、必要によっては関係者とも相談しながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別記録を確認したり、職員間で情報交換をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態に応じて、それぞれの家事能力等を把握しながら、それを活かすよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンス以外でも、状態の変化に応じて、プランの見直しを早めに行っている。	3ヶ月毎の見直しとしているが、申し送りノートを活用して、毎月のカンファレンスで検討したり、家族や関係機関と相談して、現状に即したケアプランの作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化に対しては、申し送り等でも確認、スタッフから聞き取り、ケアに活かしている。申し送りノートを作り伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	インフォーマルなボランティアの協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉祭りには、作品を展示し、イベントに参加している。輪投げ大会等にも参加し、力を発揮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態の変化には、医療連携の訪問看護へ報告し主治医との連携を図っている。	本人と家族の希望するかかりつけ医となっているが、変更する場合は家族と相談して決めている。また、家族が付き添いできない場合は職員が同行し結果を報告しており、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化等を報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院でありケースワーカーが仲立ちとなり治療方針、又は、予後についても主治医との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアルはあるが、現在は安定している為、現状維持できるよう、又、変化を見逃すことのないよう、ケアに努めている。	現在は対象となる利用者はいないが、入居時に重度化した場合の対応の在り方について説明しているほか、ホームと関係機関(医療関係など)と連携しながら、チームで支援する体制をつくりあげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応している。訓練は、病院、協会等で行う時は、交代で出来るだけ参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、春は日中想定で、秋は夜間想定で避難訓練を実施、分署、整備センター、地域の方々から協力を得ている。	避難訓練、消火器の使用方法など消防署の指導を得ながら年二回実施している。また、両隣の住民や運営委員も役割を持って参加しており地域との協力体制を築いている。	消防署の立会いや住民も参加する協力体制ができているが、利用者の安全な避難誘導には日頃の訓練が大切であり、さらに、地域住民の幅広い協力体制を築かれるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄面での失敗によって落ち込む方がいる為、排泄チェック表を常に活用し、服薬の調整等で対応している。	職員は、利用者のその人らしい姿や特徴をよく把握してるほか、情報は職員で共有している。利用者間での暴言によるトラブルや無断入室などでは、その人に合わせた声がけをしたり寄り添ったりしてその人の尊厳を損ねないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方に対しては、選択肢を与えることで決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で趣味の読書や書き物に没頭しているときは、そっと見守りながら過してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれには関心があり、行事のときなどの化粧は喜ばれる。又、定期的に床屋へ出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けし、準備や野菜切り、片付け等、協力的に参加してくれている。	もやしやの芽とり等や、食後の後片付け等を職員と一緒にいき、利用者の力を発揮する場面をつくり工夫が見られる。また、職員も一緒にテーブルを囲んで食事し好きな食べ物などの話をしながら楽しめるよう工夫して支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体(病院)からのメニューが、毎週届けられ、カロリー計算したものに添って材料を揃えている。又、DMの方に対しては、摂取量を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今年度も口腔ケア指導を受けて、実践として毎食後の歯磨きや週3回、除菌剤を使用している。口腔体操も習慣づけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しているが、本人の尿意、便意に添って対応している。おむつは、失禁量等加味して本人に合った物を使用している。尿量、色、臭いと健康状態を観察している。	利用者個々の排泄状況を丁寧にチェックし把握しており、さりげない声掛けをして誘導し、トイレでの排せつを大切にしながら利用者のほっとした安堵と自信につながる排泄の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員朝はヤクルト10時には牛乳を飲用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時々入浴を拒む方がいるが、気の合う人と一緒に入っている。全員、隔週の入浴となっている。	入浴は隔日としているが、希望すれば毎日でも入浴できる。拒否する利用者には「洗濯を手伝って」などと声がけて誘導したり、気の合う人と入浴したいという場合には希望に沿って対応するなど、その時の状況に臨機に依っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の環境整備をして、それぞれ使用しやすいよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	糖尿病の薬を服用している方がいるので、マニュアルを用意している。全員の薬の説明書を揃えて、その都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	元教師の方は、歌も好きで、積極的に指揮をしてくれ、皆さんを先導してくれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春・秋彼岸ではお供え物を用意して、一緒に墓参りに出掛け、供養している。	日常的には、ホーム前の広場で歌ったり花を眺めたり、周辺の散歩に出掛けている。希望があれば公園などにドライブしたり、彼岸に墓参りに出掛けたり、家族の協力を得て自宅に帰ったりするなどして外出支援に努めている。	高齢化も進み、外出する希望や意欲も減退してくると思われるが、五感刺激のため安全に配慮しながら歌ったり花を摘んだりと家族や地域の協力を得ながら外出支援を継続されることを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する方もいる。持つことで安心され、納得しているようである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書は、下準備することで記入し、投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の環境整備は、その方の機能面も加味し配置している。リビングは集いの場であり、光の具合も考慮し、遮光のためレースのカーテンを設置した。	既存施設の改造であるが、廊下に手すりを取り付け、トイレも広く共用空間の安全に配慮している。また、リビング兼台所にはテレビとソファを配置し花や水木団子などを飾りつけ季節感を取り入れて居心地よく暮せる環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へ出向き、入居者同士談笑することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持ち込まれた物を飾る等、工夫をしている。	本人や家族と相談して、使い慣れたタンスや衣装ケース、仏壇などが持ち込まれ、鉢花や写真などを飾るなど、その人らしい雰囲気をつくりして居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの機能面に配慮して、テーブル、イスを並べ、手摺りとして代用している。		